

平成26年度 行政評価事業別シート

	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	永井隆広
		全体計画				経費区分		-		内線	3645
事務事業名	4299 親善交流事業										
所 属	300200 教育委員会事務局・子ども課										
施 策	07024000 多様な活動主体の参画による地域社会づくりの推進										
予算 科目	会計	01 一般会計									
	科目	100606 教育費・社会教育費・児童青少年総合対策費									
	事業	020000 親善交流事業									
事業目的						事業概要・効果					
姉妹都市三浦市の児童・生徒との交流を通して、須坂の良さを再認識するとともに、姉妹都市の文化や生活への理解を深め、交流の中から新しい友人をつくり、豊かな心を育む。						姉妹都市神奈川県三浦市の児童・生徒がお互い交互に訪問し交流する。 民泊は、はじめて知らない家庭に泊まらせていただく機会、経験した児童・生徒、受け入れた家庭にとって貴重な経験となる。 中学生は班の責任者として、責任感、積極性を身につけ、日常の学校生活や生徒会活動の中でも活かす。					

PLAN-DO
年度実績及び予定

平成22年度 実績	平成23年度 実績
平成24年度 実績	平成25年度 実績
三浦市参加者37人 須坂市参加者46人	三浦市参加者38人 須坂市参加者47人
平成26年度 予定	平成27年度 予定

指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度 目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度 目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度 目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成25年度 決 算	平成26年度 予 算
事業費		1,104	1,242
特定 財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		1,104	1,242
人員数 (人)	正規職員	0.3	0.4
	嘱託職員	0.2	0.2
	臨時職員	0.0	0.0
人員 コスト	正規職員	2,057.4	2,743.2
	嘱託職員	545.0	545.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	2,602.4	3,288.2
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		3,706.4	4,530.2

(単位：千円)

平成25年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	67	随行者謝礼
11節 需用費	378	消耗品費、現地食事代、資料印刷費
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	659	

(単位：千円)

平成26年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	81	随行者謝礼
11節 需用費	421	消耗品費、現地食事代、資料印刷費
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	740	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	やや低い
評価コメント	市民生活をするうえで必要不可欠な事業ではない。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	あまり有効ではない
評価コメント	積極的な参加は少なく。学校の協力は不可欠。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや悪化
評価コメント	民泊の家庭確保が困難、市が全面的に担っていくには年々環境が厳しくなっている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

学校の協力で参加者が維持されているが、義務的な雰囲気があり民泊など家庭の協力は年々得難くなっている。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	抜本的見直し（縮小）	次年度以降の方向性	進め方の改善（縮小）
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>交流事業開始から40年経過。 少子化に伴う参加児童数などの見直しが必要。</p>		<p>姉妹都市交流を通じて、須坂の良さの再認識や民泊を通じた様々な経験は重要であるが、児童数、生徒数の減少により進め方の見直しが必要である。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性
外部評価コメント